



株式会社 アルバック

**2025年6月期 第3四半期
決算説明資料**

2024年7月～2025年3月

2025年5月13日



将来見通し等に関する記述についての注意事項

■ 将来見通しについて

本資料に記載の業績見通しならびに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき作成されたものです。世界経済情勢、半導体・電子部品・FPD・原材料などの市況、設備投資の動向、急速な技術革新への対応、為替レートの変動など様々な要因により、実際の業績・成果等はこれらの見通し・将来予測と大きく異なる可能性があることをご承知おさください。

■ 数字の処理について

本資料に記載の数字・比率につきましては、単位未満四捨五入で処理しております。

■ 品目名称変更について

2025年6月期より、FPD製造装置の名称をディスプレイ・エネルギー関連製造装置に変更しております。

2025年6期 第3四半期

業績進捗

- 外部環境の変化等を背景に、売上高/各利益項目が減少するも
売上総利益率 3Q : 33.3%、前3Q累計比 : +1.2ptと着実に上昇

通期予想
下方修正

- EV関連ビジネス鈍化等による受注高減少等に伴い、通期業績予想を下方修正
- 株主還元重視による安定配当の観点から、**配当は従来予想を据え置き**

今後の方針と施策

今後の方針/
施策

- 外部環境の変化等により、2026年6月期を最終年度とする現中期経営計画の目標達成が困難と判断し、現中期経営計画の廃止決定。**持続的な成長を確実にするために抜本的な改革を断行**、2026年6月期を初年度とする**新中長期経営計画“バリューアッププラン”**をスタート(8月開示)
- **経営資源の最適化を断行、半導体電子中心の事業ポートフォリオへの見直しを加速**させ高成長/高収益性を実現し、企業価値を高めることで資本市場における評価向上を目指す

サマリーからご説明いたします。

一つ目、2025年6期第3四半期の業績進捗としましては、外部環境の変化等を背景に、売上高/各利益項目は減少しましたが売上総利益率は、当3Qで33.3%となり、前3Q累計比でも、1.2ptプラスと着実に上昇しています。

二つ目の通期予想においては、EV関連ビジネス鈍化等による受注高減少等に伴い、下方修正いたしました。一方、株主還元重視による安定配当の観点から、配当は従来予想の164円を据え置きます。

三つ目の今後の方針と施策といたしまして外部環境の変化等により来期を最終年度とする現中期経営計画の廃止を決定しました。そして、来期にあたる2026年6月期を初年度とする新中長期経営計画（バリューアッププラン）を新たにスタートさせます。

詳細内容につきましては8月に開示予定ですが、本日はその概要をご説明いたします。本プランでは、経営資源の最適化を断行し、半導体電子を中心とした事業ポートフォリオへの見直しを加速させることで、高成長・高収益性の実現を目指します。また、企業価値を向上させることで、資本市場における評価の向上を図る方針です。



2025年6月期 第3四半期連結業績

【単位：億円】	2024/6期						2025/6期					
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	3Q累計	前年同期比	
受注高	780	561	556	1,897	685	2,582	509	655	475	1,639	-258	-14%
売上高	550	652	650	1,852	759	2,611	610	739	529	1,877	+25	1%
売上総利益	153	201	220	574	233	807	191	238	176	605	+31	5%
率	27.7%	30.8%	33.8%	31.0%	30.7%	30.9%	31.3%	32.2%	33.3%	32.2%	+1.2pt	
販管費	124	126	119	369	139	509	134	142	122	398	+29	8%
営業利益	28	75	101	204	94	298	58	96	54	208	+4	2%
率	5.1%	11.5%	15.5%	11.0%	12.3%	11.4%	9.4%	13.0%	10.2%	11.1%	+0.0pt	
経常利益	29	81	95	205	93	298	69	92	61	221	+17	8%
率	5.3%	12.4%	14.6%	11.1%	12.3%	11.4%	11.3%	12.4%	11.5%	11.8%	+0.7pt	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11	57	64	132	69	202	37	67	27	131	-1	-1%
率	2.1%	8.8%	9.9%	7.1%	9.1%	7.7%	6.1%	9.0%	5.1%	7.0%	-0.2pt	

- » 3Q受注高減少等に伴い、3Q売上高・各利益項目減少も、売上総利益率は33.3%と着実に上昇
- » 前3Q累計比で売上総利益率+1.2ptと利益率ベースは着実に改善

Copyright © 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

5

第3四半期決算概要についてご説明します。

25/6期3Q累計の受注高は、1,639億円となり前年同期比で258億円の減少となりました。

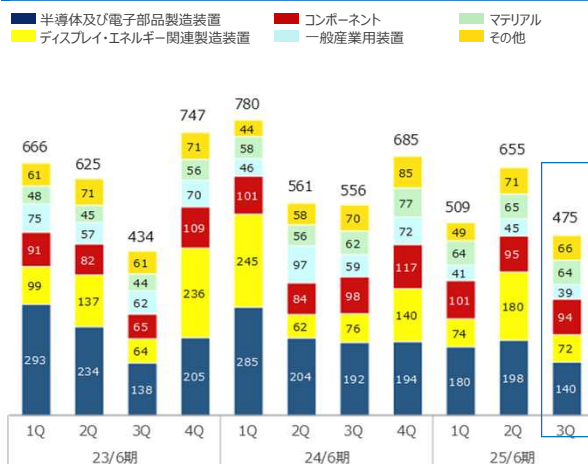
受注高は減少しているものの、3Q累計の売上高は1,877億円、前期比25億円と増加、営業利益は208億円と前年同期比で4億円増加し増収増益での着地となりました。

3Q 3カ月間で見た場合では、受注高が475億円となり2Q比で減少したことに伴って、売上高においても529億円と2Q比で減少したことが影響し、各利益項目は減少しました。

その一方で、売上総利益率は33.3%と着実に上昇しており、前3Q累計比においても、売上総利益率は1.2pt プラスと利益率のベースは着実に改善しています。

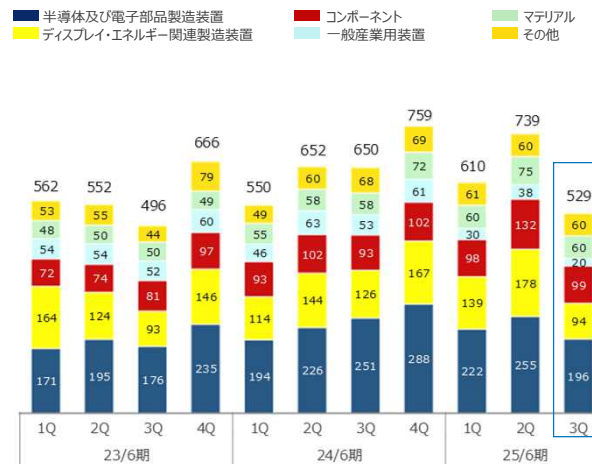
受注高

【単位：億円】



売上高

【単位：億円】



- ≫ 【受注高】 2Q比▲180億円 : 2Q・OLED案件の反動減、パワーデバイス・バッテリー等の弱含み継続
- ≫ 【売上高】 2Q比▲210億円 : 3Q受注減少等の影響で売上高減少

Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

6

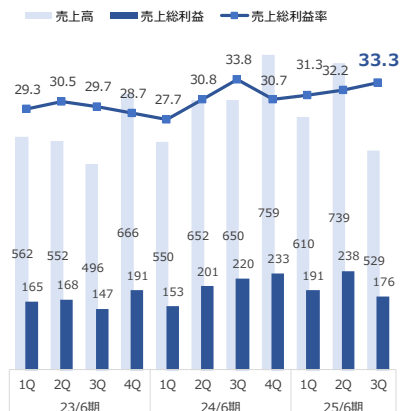
こちらのグラフは受注高・売上高の四半期推移です。

左のグラフをご覧ください。3Q受注高は475億円となり、2Q比で180億円の減少となりました。これは2Qで受注した大口のOLED案件の反動減とパワーデバイス・バッテリーなどの弱含みが継続するなど当期の受注見込みから来期へと期ズレしていることが主な要因です。

右のグラフの売上高においては、受注高減少等の影響により529億円と2Q比で210億円の減少となっております。

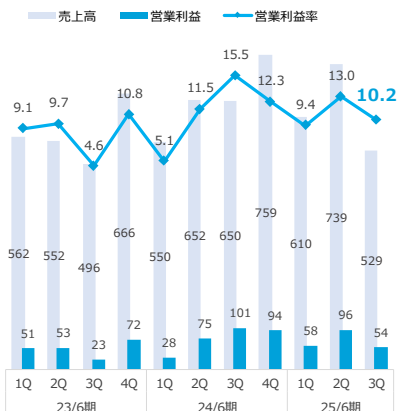
売上総利益率

【単位：億円、％】



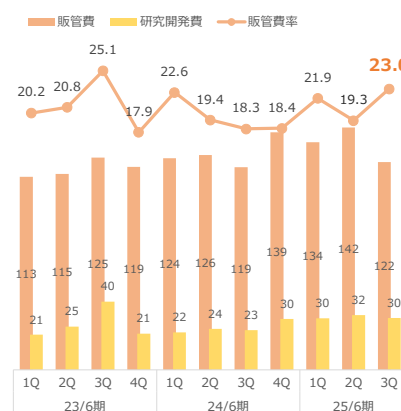
営業利益率

【単位：億円、％】



販管費率

【単位：億円、％】



- 売上総利益率：3Q売上高減少も、ミックス改善・高利益率案件の寄与等で売上総利益率33.3%達成**
- 営業利益率：売上高減少に伴い、営業利益率低下**

Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

7

続きまして、利益率の推移です。

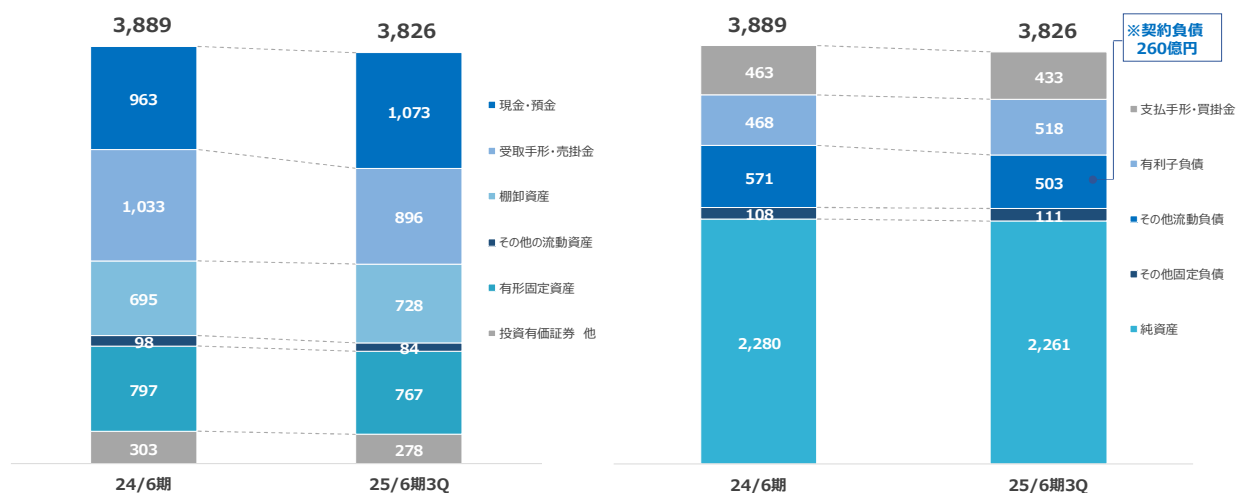
左のグラフ売上総利益率は、相対的に利益率の高い半導体電子・コンポーネントの売上高構成比は50%超を継続、またグループ会社の表面分析装置の売上が利益率の高い地域に集中したことなどにより、3Qでは33.3%となりました。2Q比でマージン改善が進んでおり、利益率のベースは着実に上昇しております。

真ん中のグラフ、営業利益率につきましては、売上高減少に加え、研究開発投資継続などにより2.8pt低下しております。

また、右のグラフ販管費率は、販管費の実額は2Q比で減少しましたが、売上高が減少したことで、3Qにおいては23%となっております。

資産【単位：億円】

負債・純資産【単位：億円】



Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

8

3Q末のバランスシートの状況です。

左側資産において、棚卸資産は一時的に増加していますが、売掛金は回収も進み、減少しました。これにより現預金は、一時的に1,073億円と増加しておりますが、4Q末には一定程度減少する見込みであります。

なお、25/6期3Q末の自己資本比率は57.2%となっております。



2025年6月期 業績予想

2025/6期 業績予想の修正

【単位：億円】	24/6期	25/6期					
	通期実績	前回予想	通期予想	前回予想比		前年同期比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	2,582	2,600	2,300	-300	-12%	-282	-11%
売上高	2,611	2,750	2,500	-250	-9%	-111	-4%
売上総利益	807	890	800	-90	-10%	-7	-1%
率	30.9%	32.4%	32.0%	-0.4pt	-	+1.1pt	-
営業利益	298	345	270	-75	-22%	-28	-9%
率	11.4%	12.5%	10.8%	-1.7pt	-	-0.6pt	-
経常利益	298	350	275	-75	-21%	-23	-8%
率	11.4%	12.7%	11.0%	-1.7pt	-	-0.4pt	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	202	230	170	-60	-26%	-32	-16%
率	7.7%	8.4%	6.8%	-1.6pt	-	-0.9pt	-
1株あたり配当金（円）	144	164	164	0		+20	

- » 受注高：EV関連ビジネス純化等で受注高見込みを2,300億円に見直し
- » 売上高・各利益(率)：受注高減少に伴う通期予想を修正も、売上総利益率は32%と改善を見込む
- » 株主還元重視による安定配当の観点から、配当は従来予想を据え置き

Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

10

本日開示しましたとおり、業績予想を修正いたしました。

修正の内容は、受注高をEV関連ビジネス、主にパワーデバイス、バッテリーの純化等を反映し、見込みを前回予想より▲300億円減少の2,300億円へ変更、売上高は、受注高の減少に伴い、▲250億円減少の2,500億円へと修正し、各利益につきましても、売上高修正と併せてそれぞれ下方修正させていただきました。

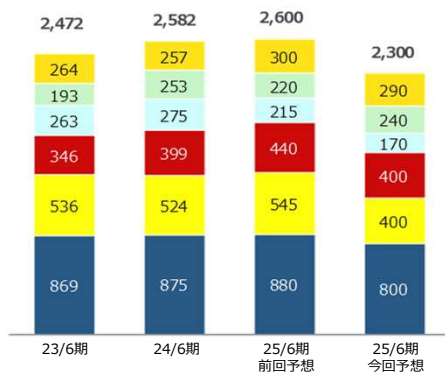
全体的に見直しを図った一方で、重要指標としている売上総利益率につきましては、32.0%と着実な改善を見込んでおります。

そして、配当予想につきましては、株主還元重視による安定配当の観点から、従来予想の164円を据え置きました。

受注高

【単位：億円】

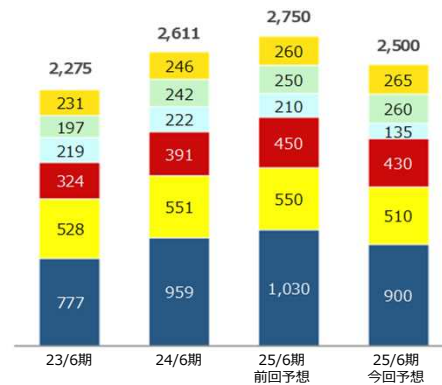
■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ マテリアル
 ■ ディスプレイ・エネルギー関連製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



売上高

【単位：億円】

■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ マテリアル
 ■ ディスプレイ・エネルギー関連製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



» 受注高：パワーデバイス・バッテリービジネス等の投資減速により減少

» 売上高：期中受注→期中売上計上予定分が来期への期ずれにより減少

Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

11

業績予想修正の品目別ごとの受注高・売上高です。

左側グラフ、受注高は、大きくは、下段青色の半導体電子部品において、主にパワーデバイスの投資減速を反映し、受注見込みを前回より▲80億円減少の800億円へ変更、黄色ディスプレイエネルギー関連装置では、バッテリー投資の減速を反映し、受注見込みを前回より▲145億円減少の400億円へ変更しております。

右側グラフ、売上高は、受注見込みの減少に伴い、期中受注→期中売上計上予定分が来期への期ずれとなる分を各品目で修正しております。

品目	市場環境・投資動向	CY25
半導体 ロジック・メモリ	- DRAM：スマホ・AI需要による回復、HBM関連投資継続 - NAND：ストレージ需要・生成AI関連需要による拡大期待 - 先端ロジック：次世代ノードに向けた投資本格化	
各種電子デバイス	- 生成AI向けWLPビジネス拡大 - PLP開発投資活発化	
パワーデバイス	EV需要鈍化・8inchSiCへの切り替えタイミングで投資減速も中長期に成長	
ディスプレイ	タブレット・車載向けOLED実現に向けた設備追加・改造案件による持続的貢献	
バッテリー関連	バッテリーメーカーによるアルミ両面蒸着膜の試用増加も、量産転換は依然鈍化。銅両面蒸着膜・リチウム膜等で中長期的な成長期待	
コンポーネント・一般産業・ マテリアル・その他	- 半導体電子等における各種設備投資の活発化に伴い、安定基盤ビジネスとして堅調に推移 - 先端デバイス等の研究開発活発化に伴う表面分析装置好調	

Copyright © 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

12

カレンダーイヤー25年の市場環境・投資動向です。

半導体につきまして、DRAMでは韓国大手メーカーの投資が一部期ずれが見られますが、スマホ・AI需要による回復、HBM関連投資継続で上向き基調です。

NANDはストレージ需要・生成AI関連需要による拡大が期待されています。

ロジックで北米メーカーの一部投資延期の影響が見込まれますが先端ロジックは次世代ノードに向けた投資本格化が見込まれます。

各種電子デバイスは、好調な生成AI向けWLPビジネス拡大に加え、PLPの25年後半からの開発投資活発化が期待されます。

パワーデバイスは、EV需要鈍化・8inchSiCへの切り替えタイミングで足もとは投資が減速していますが、1年から1年半後の回復を想定し、中長期に成長を見込んでおります。

ディスプレイは、中国におけるタブレット・車載向けOLED実現に向けた設備追加・改造案件による持続的な貢献を見ています。

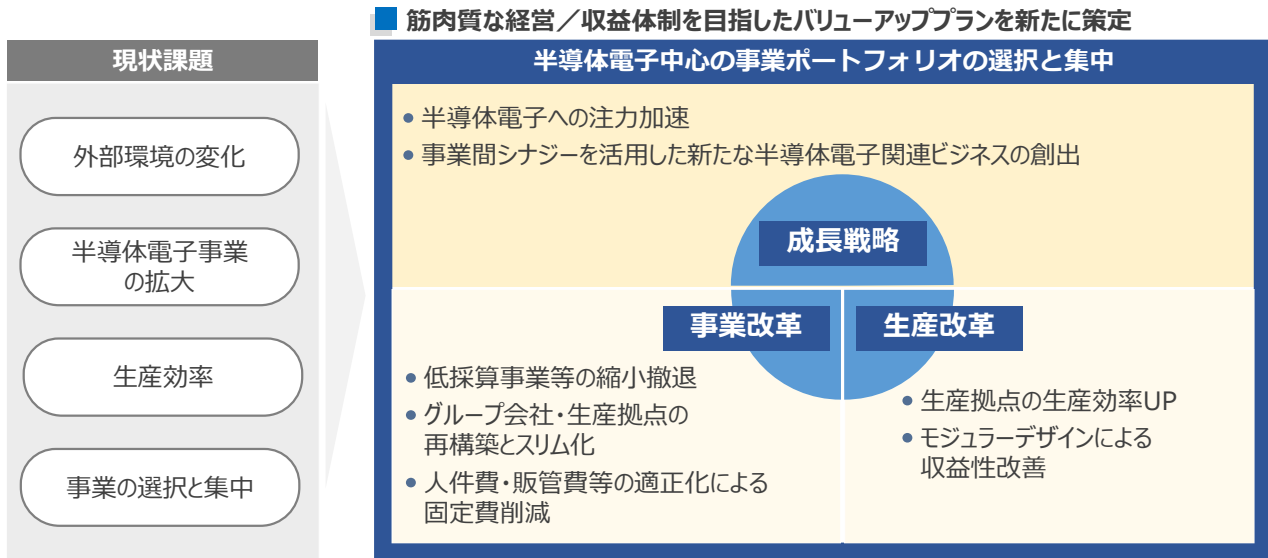
バッテリーは、バッテリーメーカーによるアルミ両面蒸着膜の試用増加も、量産転換は依然鈍化、今後の銅両面蒸着膜・リチウム膜等で中長期的な成長を期待。

コンポーネント他では、半導体電子等における各種設備投資の活発化に伴い、安定基盤ビジネスとして堅調に推移し、先端デバイス等の研究開発活発化に伴う表面分析装置は、堅調に推移しています。



新中長期経営計画 概要 ～ バリューアッププラン ～

» 経営資源の最適化を断行、半導体電子中心の事業ポートフォリオへの見直しを加速させ高成長/高収益性を実現することで、企業価値を高め資本市場における評価向上を目指す



Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

14

当社は、新中長期経営計画「バリューアッププラン」を策定し、経営資源の最適化を進め、半導体・電子を中心とした事業ポートフォリオへの見直しを加速させてまいります。この取り組みにより、高成長・高収益性を実現し、企業価値を高め、資本市場での評価向上を目指していきます。

ここ数年の間、半導体電子にシフトすることを皆様に約束してきました。足もとの受注状況も踏まえ、さらに半導体電子へのシフトを進めていくことが重要課題だと認識しています。

過去数年間、既存の経営資源を活用し、半導体、パワーデバイス、バッテリーなど5つの成長ドライバーを定め、事業の成長に取り組んでまいりました。その結果、確実にビジネスを拡大してまいりました。また、モノづくり力の強化を通じて収益性の改善にも一定の成果を上げてきました。

しかしながら、現行の中期経営計画の延長線上では、成長に限界があることも明らかになってきました。特に、より大きな成長が期待される半導体・電子市場において、さらなる成長を確実に実現するためには、抜本的な改革が必要であると判断しました。そこで、現行の中期経営計画を廃止し、事業改革・生産改革・成長戦略を軸として、新たな中長期経営計画を決断しました。

この計画では、現状認識している課題を解決するために、様々な施策の改革を断行していきます。具体的には、右側の図にあります通り、2つの改革と成長戦略を実行していきます。

1つ目は「事業改革」です。

低採算事業等の縮小撤退、グループ会社や生産拠点の再構築とスリム化を進めるとともに、人件費や販管費の適正化を通じて固定費削減を図ります。

2つ目は「生産改革」です。

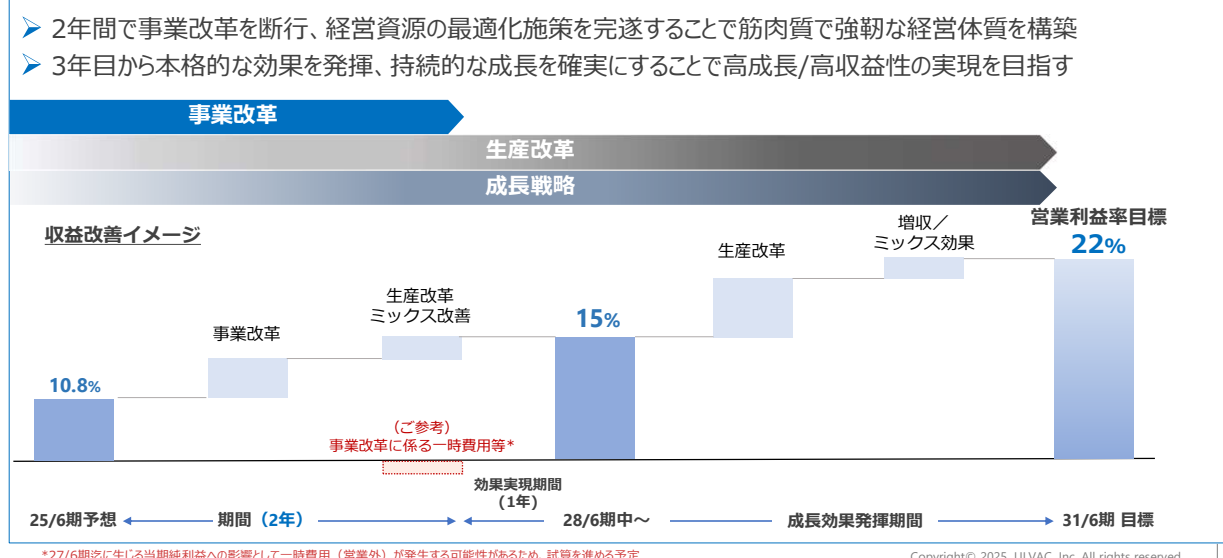
これまでモジュールデザインの対象機種の選定や絞り込み、モジュールデザイン化の仕組みを構築してまいりました。モジュールデザイン化の取り組みはすでに一定の効果が出てきており、今後さらなる生産拠点の生産効率UPをして、収益性の改善をしていきます。

これらの「事業改革」と「生産改革」を基盤として、当社の成長戦略を推進してまいります。

具体的には、半導体・電子分野への経営資源を集中させることで事業拡大を加速させるとともに、事業間シナジーを活用し、新たな半導体・電子関連ビジネスを創出していきます。

これらの取り組みを通じて、持続的な成長と企業価値の向上を実現していきます。

- » 持続的な成長を確実にするためには、足もとの事業改革が必要と判断
- » 「事業改革」「生産改革」「成長戦略」からなる6年間の中長期経営計画を策定



まずは足元の2年間で事業改革を断行し、筋肉質で強靱な経営体質を構築することが必要不可欠であると考えています。

これまでは、成長ドライバーとして定めたビジネスを中心に全体的な事業の成長を目指してきました。しかし、ここで抜本的な事業改革を実行し、まずは足元の経営基盤を強固にすることが重要だと判断しました。この考えに基づき、「事業改革」「生産改革」「成長戦略」からなる6年間の中長期経営計画「バリューアッププラン」を策定することにいたしました。

最初の2年間で事業改革を断行します。この期間中に、経営資源の最適化施策を完遂し、筋肉質で強靱な経営体質を構築することを目指します。具体的には、グループ全体のスリム化や固定費削減を進め、効率的な経営体制を実現します。

3年目以降は成長効果発揮期間に移行し、事業改革での成果を基盤としてその効果を最大限に発揮させます。これらの取り組みによって、持続的な成長を確実にすることで、高成長・高収益性の実現を目指します。数値目標として、31/6期の営業利益率22%を目標としています。

成長効果が本格的に現れ始めるのは3年目以降であるため、3年間では効果を最大化することが難しいと考えたため、6年間という中長期的なスパンで計画を策定していきます。

- » 27/6期までの**2年間**で経営資源の最適化施策を完遂
- FPD関連事業を含む事業ポートフォリオ見直しによる選択と集中
- 28/6期初からの収益率寄与を想定

事業改革 1年目～2年目

- 低採算事業等の縮小撤退
- グループ会社・生産拠点の再構築とスリム化
- 人件費・販管費等の適正化による固定費削減

Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

16

まず、事業改革について説明いたします。

27/6期までの2年間で「事業改革」に取り組み、経営資源の最適化施策を完遂してまいります。この期間で、筋肉質で強靱な経営基盤を構築するため、やりきる覚悟で改革を断行いたします。

この事業改革では、以下の3点を重点施策として取り組んでまいります。

1点目は、低採算事業等の縮小撤退です。

全事業を精査し、低採算事業の縮小や撤退を果敢に進めることで、成長力があり、収益力の高い事業への選択と集中を加速します。具体的には半導体電子関連事業への経営資源をより集中する等、経営資源を効率的に再配分し、収益性の向上を図ります。この取り組みにより、当社の成長を牽引する事業領域を明確化し、事業基盤をより強固なものにしてまいります。

2点目は、グループ会社や生産拠点の再構築とスリム化です。

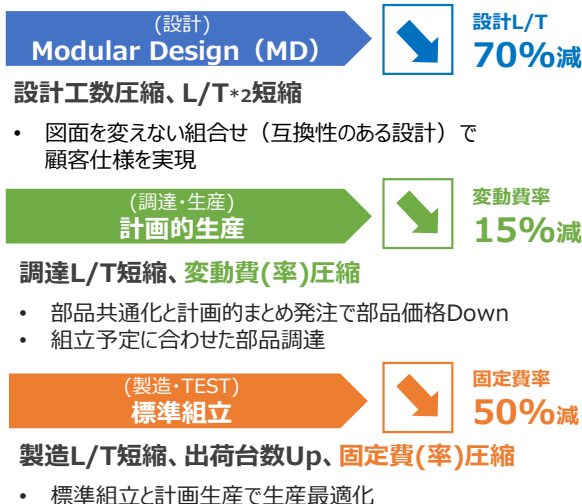
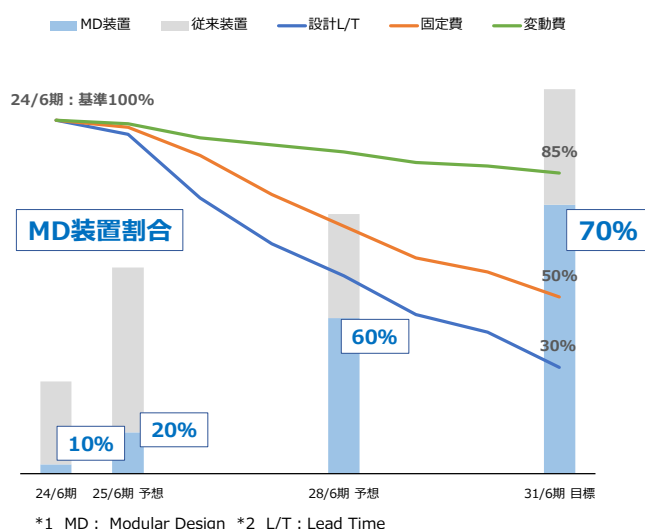
これにより、グループ全体の経営・業務効率化を推進し、経営基盤を強化してまいります。無駄を徹底的に排除し、効率的かつ柔軟な組織体制、生産体制を構築することで、事業運営の質を一層向上させていきます。

3点目は、固定費削減です。人件費や販管費などの適正化を進めることで、固定費の削減を実現し、収益性の向上を目指します。

これらの施策を通じて、FPD関連事業を含む事業ポートフォリオ見直しによる選択と集中を加速させ、28/6期初からの収益率への寄与を確実に実現してまいります

» 半導体電子中心のモジューラードesign装置割合を高め顧客ニーズに迅速に対応し、収益性改善を実現

➤ これまで生産システムの見直し、MD*₁化の仕組み構築等を進めてきたことで25/6期から効果が出始めており、確実に生産性向上が見込める状態に



Copyright © 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

17

次に、「生産改革」についてご説明いたします。

当社では、半導体・電子を中心としたモジューラードesign装置（MD装置）の割合を高め、顧客ニーズに迅速に対応することで、収益性の改善を実現してまいります。

これまで、社内の生産システムの見直しやモジューラードesign化（MD化）の仕組み構築を進めてまいりました。

そして、昨年度より装置でのMD化に着手し、今年度からその効果が出始めています。この取り組みをさらに加速させることで、生産性の向上が確実に見込める状態となりました。

半導体電子比率を高め、従来機種からの切り替え、モジューラードesign装置の割合を高めることで、具体的には以下の成果を目指します。

まず、設計リードタイムの短縮です。モジューラードesignの活用により、設計リードタイムを従来比で7割削減します。これにより、顧客への迅速な対応が可能となり、競争力を大幅に向上させます。

次に、調達リードタイムの短縮と変動費率の削減です。計画的生産を拡充することで、調達リードタイムを短縮し、変動費率を15%削減します。

さらに、製造リードタイムの短縮と固定費率の削減です。標準組み立ての拡充により製造リードタイムを短縮し、出荷台数の増加を実現します。これにより、製造固定費率を50%削減し、効率的な生産体制を構築します。

これらの取り組みを通じて、生産効率の向上とコスト構造の改善を図り、競争力のある生産体制を構築してまいります。

» 持続的な成長を確実にするため、事業ポートフォリオを強化し、高成長/高収益性を目指す

半導体電子
中心に
更なる成長

- 事業間シナジーを活用した
新たな半導体電子関連ビジネスの創出
- 半導体/電子事業の成長加速
- AI関連ビジネス拡大の取り組み

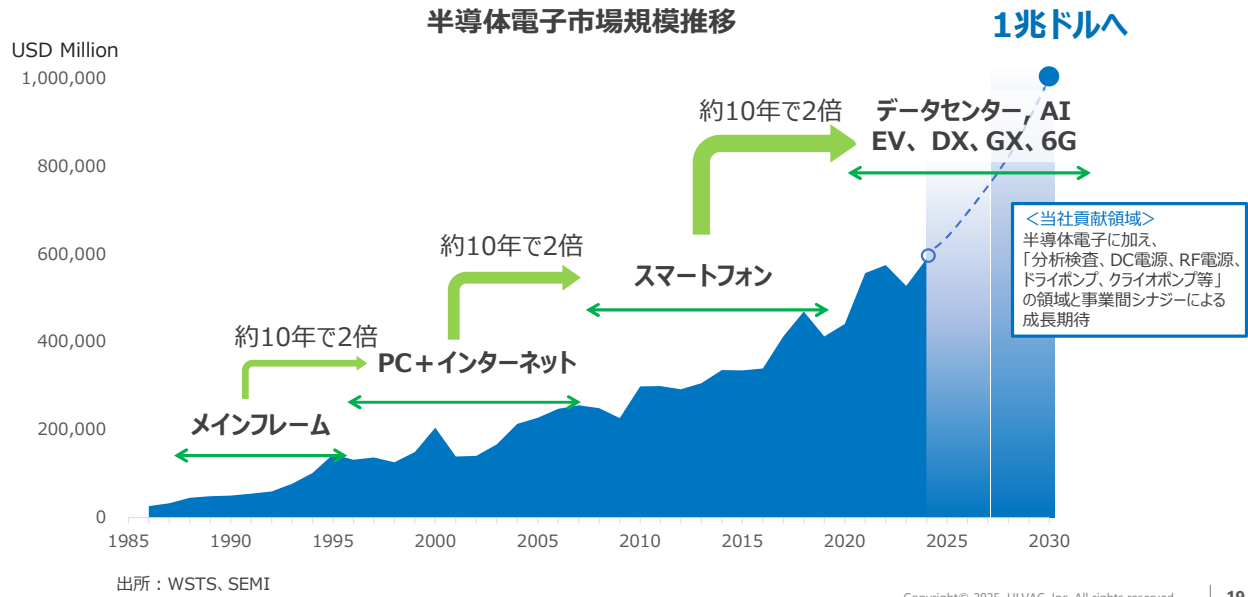
成長戦略について説明いたします。

これまでご説明しました「事業改革」と「生産改革」を基盤として、次のステップである「成長戦略」を推進してまいります。

この戦略では、半導体・電子分野を中心にさらなる成長を目指し、既存事業間のシナジーを最大限に活用することで、新たな半導体・電子関連ビジネスを創出していきます。

具体的には、半導体・電子事業への注力をさらに強化し、成長を加速させるとともに、その中でも特に今後成長が期待されるAI関連ビジネスを中心に、多くの成長機会を捉え、当社の技術力と事業基盤を活かして事業を拡大してまいります。

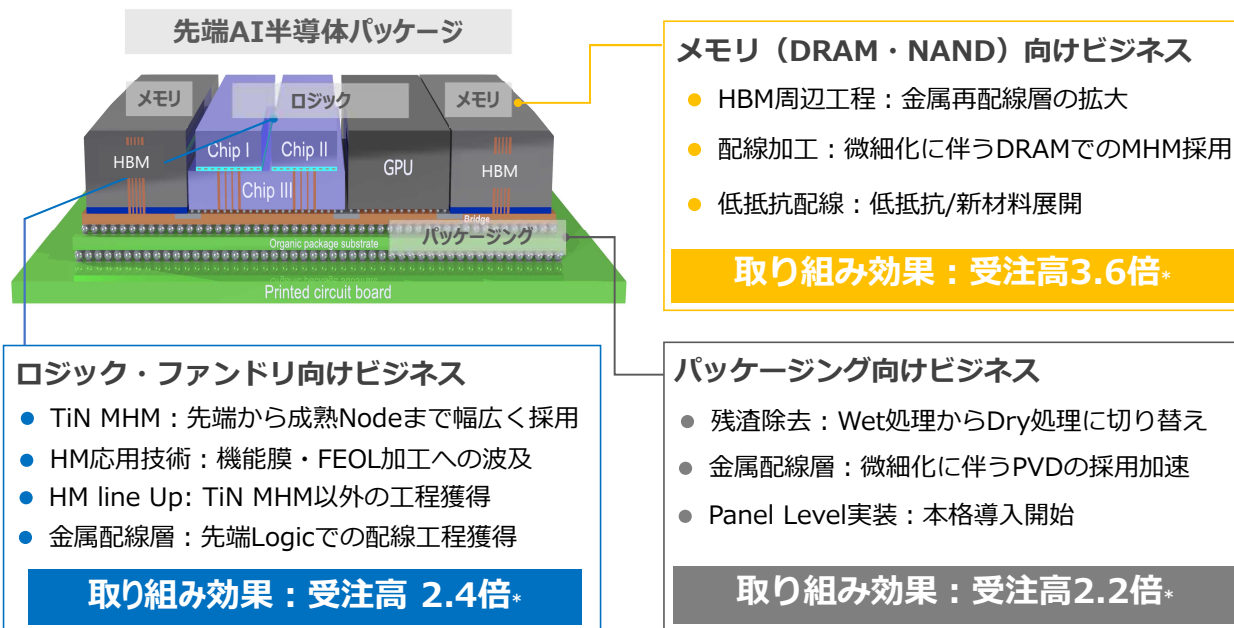
» 半導体電子市場は2030年に1兆ドルへ成長



半導体電子市場の予測です。

半導体・電子市場は、データセンターやAI、EV、DX、GX、6G通信技術の普及を背景に、今後さらなる拡大が期待されており、2030年には市場規模が1兆ドルに達すると予測されています。

当社が注力する領域は、半導体・電子分野の製造装置にとどまらず、その周辺事業についても注力いたします。例えば、弊社の得意分野である分析検査装置やポンプ、電源などのコンポーネント分野があります。これらの幅広い領域に関わることで、多くのビジネスチャンスが生まれると考えています。事業間シナジーを強化し、これらの分野でさらなる成長を目指してまいります。



*25/6期比の31/6期における効果

☆各用語の詳細解説は後段「用語集」ご参照

Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

20

AI関連ビジネス拡大の取り組みです。

先程ご説明した通り、中でも今後ますます成長が期待されるAI関連ビジネスにおいて、当社が関わる領域は非常に幅広く、多くの成長機会が存在しています。特に、ロジック、メモリ、パッケージングの各分野での取り組みを通じて、さらなる事業拡大を目指してまいります。

ロジック分野では、先端ノードから成熟ノードまで幅広く採用されているMHM技術を応用し、機能膜やFEOL加工への波及を進めてまいります。

また、TiN MHM以外の工程を獲得することで、HM技術における地位を確立していきます。さらに、先端ロジックでの配線工程獲得に向けた取り組みを進めることで、31/6期までに受注高を2.4倍に拡大することを目指します。

メモリ分野では、すでに実績のあるHBM周辺工程、特に金属再配線層の拡大を進めるとともに、新たに配線加工の微細化に伴うDRAMでのMHM採用を推進してまいります。

また、低抵抗配線技術の開発や新材料の展開を進めることで、31/6期までに受注高を3.6倍に拡大することを目指します。

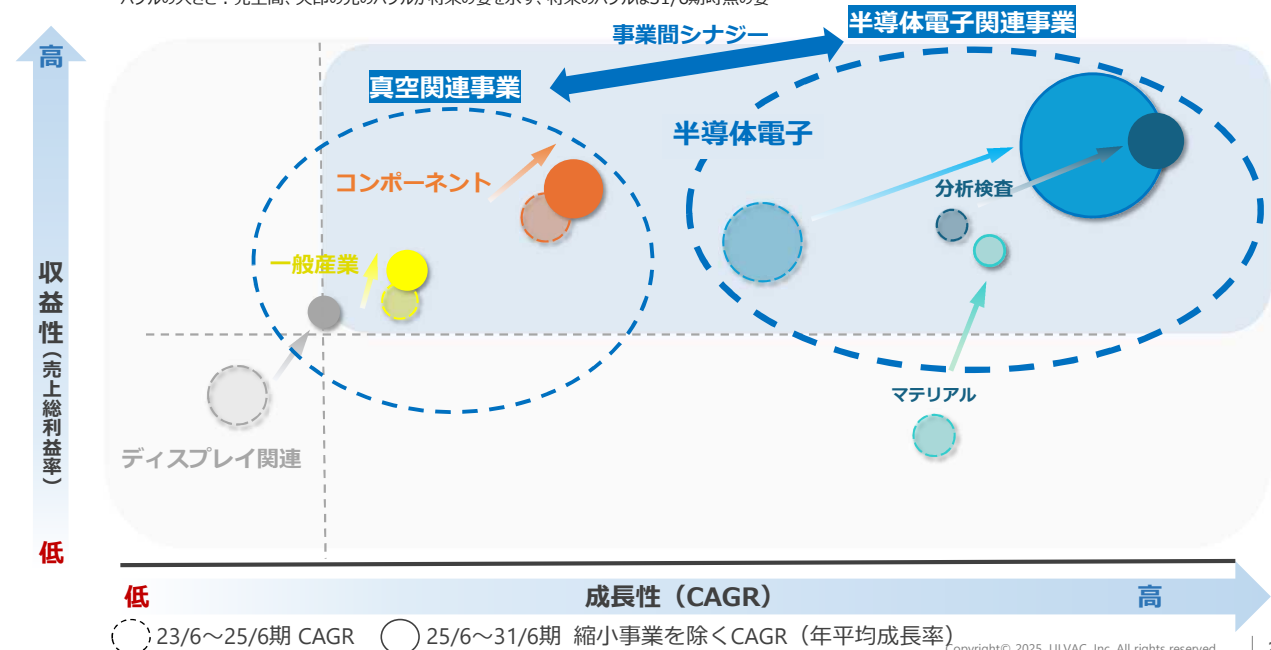
パッケージング分野では、現在好調であるアッシング装置について、Wet処理からDry処理への切り替えが進むことで、さらなる需要拡大が見込まれます。

また、パッケージングの微細化に伴いスパッタの採用が加速し、PLP（パネルレベルパッケージング）の本格導入により成長が期待されています。

これらの取り組みにより、31/6期までに受注高を2.2倍に拡大することを目指します。

AI関連ビジネスは重要な成長領域であり、これらの取り組みを通じて、AI関連ビジネスをしっかりとつかみ、飛躍的な成長を実現してまいります。

バブルの大きさ：売上高、矢印の先のバブルが将来の姿を示す、将来のバブルは31/6期時点の姿



21

こちらの図は事業ポートフォリオ戦略のイメージです。

ご覧の通り、右側の半導体電子関連と左側の真空関連事業の二つの大きなくくりで、事業ポートフォリオを集約していきます。今後ますます成長が期待されるAI関連ビジネスをはじめ、半導体・電子市場全体での需要拡大が見込まれています。

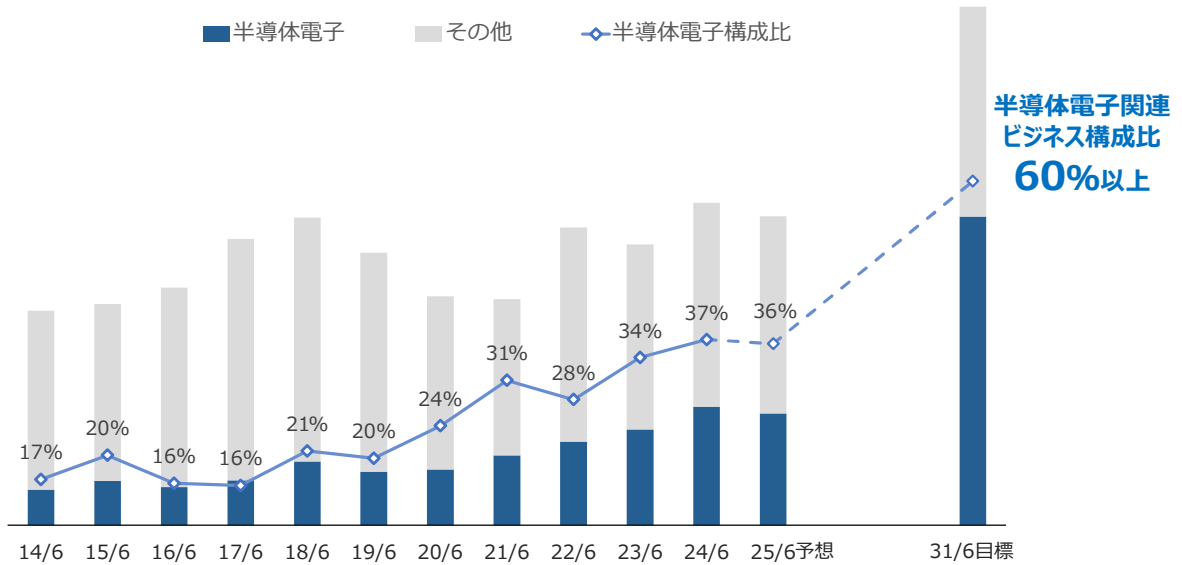
加えて、先ほどご説明の通り、得意分野である分析検査装置やポンプ、電源などのコンポーネント分野と半導体電子事業との事業間シナジーによって、多くのビジネスチャンスが生まれると考えています。

こうした成長機会を確実に捉え、半導体・電子関連事業を中心とした持続的成長をより確実にするために、事業ポートフォリオの見直しを加速いたします。

当社の事業ポートフォリオ戦略では、成長性のある分野および収益性の高い分野へ注力し、低採算事業の撤退を含めて、選択と集中を徹底することで、経営資源を最適化してまいります。

具体的には、半導体・電子関連ビジネスを最重点分野と位置づけ、経営資源を集中するとともに、真空関連事業としてカテゴライズした分野においても、事業間シナジーを活用することでさらなる成長を目指してまいります。

» バリューアッププランにより獲得する筋肉質な体制を基に、半導体電子への注力加速・事業間シナジーを活用した新たな半導体電子関連ビジネスの創出により、高成長/高収益性を実現



Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

22

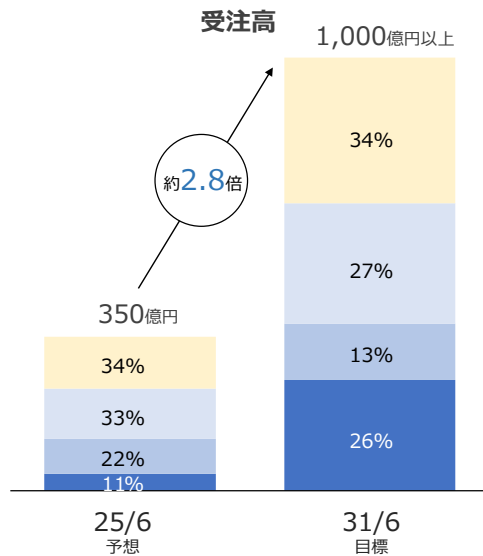
半導体電子の構成比の推移です。

棒グラフの青色部分は半導体電子事業に半導体関連ビジネスを含めた数値です。

また、ご覧の通りグレー部分のそのほかの事業においては、現在と同水準の規模で収益性を高めつつ、真空関連事業として半導体電子関連ビジネスとの事業間シナジーを生み出していきます。

この事業ポートフォリオ戦略に基づき、半導体・電子分野への注力すること及び事業間シナジーを活用を加速させ、当社の事業構成における半導体・電子関連ビジネスの比率を、31/6期までに60%以上に引き上げることを目標としております。

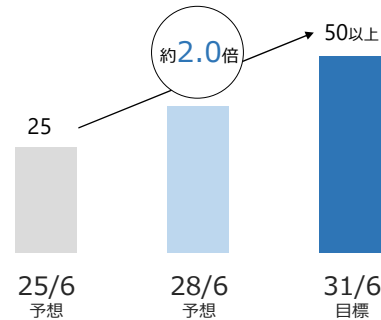
■ DRAM ■ NAND ■ Logic ■ CS(半導体)



具体的な成長戦略

- ① HM技術の応用で高密度成膜による機能膜へ
- ② HM工程Top Makerの地位確立とCu配線波及
- ③ 先端Logic Cu配線 / Post-Cu配線工程獲得によるPVD Marketシェア拡大
- ④ CS事業拡大と深化

重要顧客POR*数



*Process of Record : 量産に使われる認定プロセス

Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

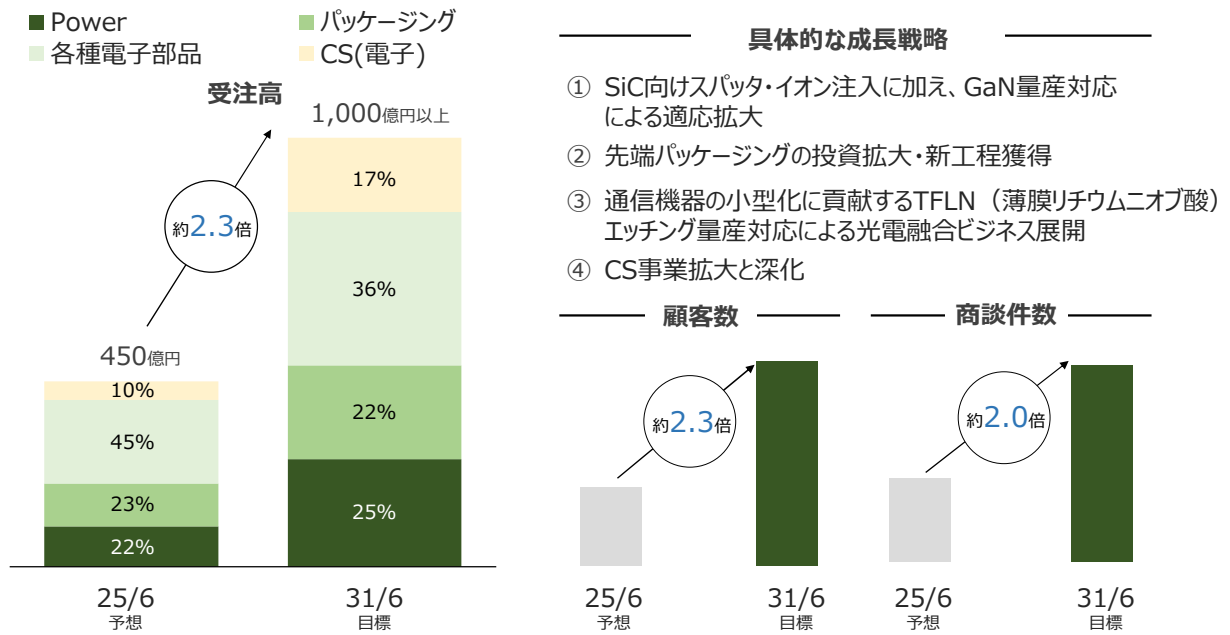
23

半導体分野における具体的な成長シナリオについてご説明いたします。

重要顧客とのPOR（Process of Record）数を現状よりも増やす中で、HM技術の応用を通じて高密度成膜による機能膜の開発を進め、HM工程におけるトップメーカーとしての地位を確立していきます。

また、Cu配線技術への波及を図り、先端ロジック Cu配線およびPost-Cu配線工程を獲得することで、PVD市場におけるシェア拡大を実現していきます。

さらに、CS事業の拡大と深化を進めることでサービス領域を広げ、31/6期には受注高1,000億円以上を達成することを目指します。



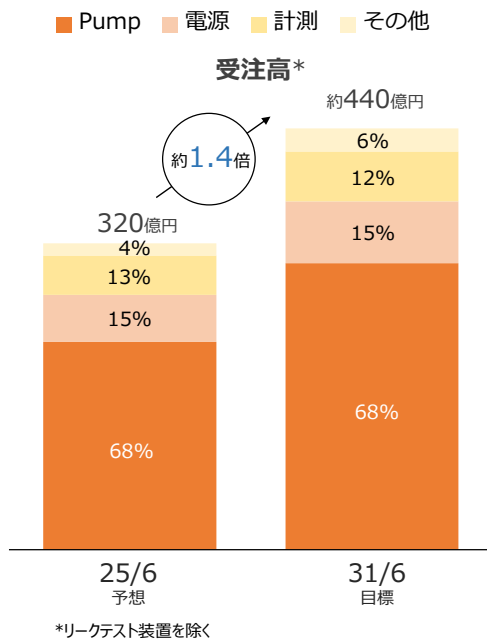
電子分野における具体的な成長シナリオについてご説明いたします。

当社は、SiC向けスパッタ・イオン注入に加え、GaNの量産対応を進めることで、適応範囲の拡大を図ってまいります。

また、先端パッケージング分野への投資を拡大し、新たな工程の獲得を目指します。

さらに、通信機器の小型化に貢献するTFLN（薄膜リチウムニオブ酸）エッチングの量産対応を起点に、注目されているA I 市場における光電融合ビジネスの展開を加速させてまいります。

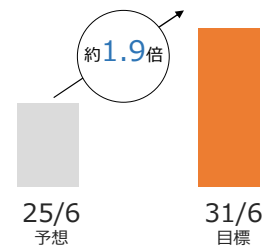
これらの活動を加速度的に取り組むことで顧客数および商談件数を現状の2倍以上に増やし、加えて、CS事業の拡大と深化を進めることで、こちらも31/6期には受注高1,000億円を目指してまいります。



具体的な成長戦略

- ① 半導体・電子市場向け新製品の市場投入
(DC電源、RF電源、ドライポンプ、クライオポンプ)
装置事業とのシナジーにより小型・低消費電力・高い信頼性の製品開発を加速
- ② 低温機器関連
量子コンピュータ用の希釈冷凍機取組中
- ③ アライアンス等によるビジネス規模拡大

半導体・電子向け新製品の受注予測



Copyright © 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

25

事業間シナジーが期待できるコンポーネント分野です。

半導体・電子市場向けの新製品として、DC・RF電源やドライポンプ・クライオポンプの市場投入を進めてまいります。

装置事業とのシナジーを活用し、小型化、低消費電力化、高信頼性を実現した製品開発を加速していきます。

また、低温機器関連では、量子コンピュータ向け希釈冷凍機の開発に取り組んでおり、成長が期待される分野での展開を進めてまいります。

さらに、アライアンスを通じたビジネス規模の拡大にも注力してまいります。

これらの取り組みにより、31/6期には受注高を440億円と現状の1.4倍に増やすことを目指してまいります。

項目	2025/6期 通期予想	2031/6期 目標
売上高 (CAGR) 半導体電子関連ビジネス*2	2,500億円	3,600億円 (CAGR 12%) *1 (CAGR 17%)
営業利益率 半導体電子関連ビジネス*2	10.8%	22%
半導体電子関連ビジネス*2 売上高構成比	13.0%	25%
半導体電子関連ビジネス*2 売上高構成比	36%	60%以上

*1 事業改革後の想定売上高をベースに計算
*2 管理会計に基づく数値

Copyright© 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

26

こちらが中長期財務目標です。

これまでとは一線を画し、事業改革を断行し、生産改革で強固な土台を築き、成長戦略を通じてビジネスを確実に拡大してまいります。

その実現に向けて、中長期財務目標（KGI）を定めました。

重要KGIとして、31/6期の目標として、売上高3,600億円、営業利益率22%を掲げております。

また、収益性の高い半導体・電子関連ビジネスの売上高構成比を60%以上に引き上げることで、ミックス効果による収益率を大きく改善していきたいと考えております。

これからの目標を必ず実現するため、これまで以上の覚悟とスピードを持って、全社一丸となり取り組んでまいります。

JCRより長期発行体格付「A」を新規取得

当社は、2025年4月25日付で株式会社日本格付研究所（JCR）より長期発行体格付「A」を新規取得しました。

本格付の取得は、事業内容や財務状況の健全性について第三者機関から客観的な評価を得ることで、経営の透明性向上と対外的な信用力強化を目的としています。

経済産業省「健康経営優良法人2025（ホワイト500）」に認定

当社は、経済産業省と日本健康会議が実施する「健康経営優良法人2025（ホワイト500）」に認定され、国内グループ9法人も中小規模法人部門で認定されました。

引き続き、健康増進を重要な経営課題として取り組みを継続・発展させていきます。



量子コンピューター向け次世代希釈冷凍機を開発、IBMと連携

量子コンピューターの超伝導量子ビットは極低温環境でのみ機能し、その冷却を支える希釈冷凍機の進化が重要です。当社は、希釈冷凍機や関連部品を自社開発・製造し、高冷却性能と拡張性を備えた製品を提供します。

日本の量子産業では海外製品の納期やメンテナンスの課題がある中、当社は国内生産体制を確立することで迅速なサポートを実現し、量子技術の発展を支えます。

また、IBMとの連携により次世代の希釈冷凍機システムを開発し、グローバルな量子コンピューティング産業の発展とサプライチェーンの強化に貢献しています。

CDP「気候変動2024」「水セキュリティ2024」で「B」スコアに認定

当社は、環境情報開示のためのシステムを有する国際的な非営利団体であるCDPが発表した「気候変動2024」および「水セキュリティ2024」において、「B」スコアを獲得しました。気候変動分野での「B」スコア獲得は2年連続となります。



Copyright © 2025, ULVAC, Inc. All rights reserved

27

- **PVD (Physical Vapor Deposition : 物理成膜)**
薄膜形成をする成膜技術（当社の場合は主にスパッタ）
- **POR (Process of Record)**
量産に使われる認定プロセス
- **MHM (Metal Hard Mask : メタル・ハード・マスク)**
配線層形成を目的に、エッチング工程での加工用マスク膜（当社はPVD：スパッタ膜）
- **HM (Hard Mask : ハード・マスク)**
PVD等で成膜されたマスク層
- **FEOL (Front End of Line)**
トランジスタやキャパシタ、抵抗などをシリコンウェハ上に形成する半導体製造プロセスの初期段階を指す
- **BEOL (Back End of Line)**
FEOLで形成されたトランジスタなどのデバイスを接続するための配線や金属層を形成する半導体製造プロセスの後半工程を指す
- **GPU (Graphics Processing Unit : グラフィックス処理装置)**
画像や映像の描画を高速に処理するために設計されたプロセッサ。AI推論では大量の加減乗除演算など、反復的な計算用に適する
- **HBM (High Bandwidth Memory : 高帯域幅メモリ)**
複数のDRAMを垂直に積層し、シリコン貫通電極（TSV）で接続することで、高速・高密度を実現した次世代メモリ技術
- **WLP (Wafer Level Package : ウェーハレベルパッケージ)**
ウェーハ（半導体基板）の状態で行うパッケージング技術で半導体パッケージング技術の一つ
- **PLP (Panel Level Package : パネルレベルパッケージ)**
従来のウェーハレベルパッケージ（WLP）に代わり、四角いパネル状の基板を用いてパッケージングを行う半導体パッケージング技術の一つ
パネルに多数の半導体チップを基板全体に配置して一括してパッケージングする技術

ULVAC